



渡部 順子さん
医療科学専攻 4年生
東京都立
日比谷高等学校出身

皆さんこんにちは。医療科学類医療科学専攻4年の渡部順子です。ここでは、私が医療科学類を志望した理由と、実際に学んで感じた魅力についてお伝えします。

私は高校時代、将来やりたいことが明確に定まっていなかったため、幅広く学べる総合学域群に入学しました。様々な授業を受ける中で生物や医療分野に興味を持つようになり、臨床検査技師として医療に関わる道と、基礎研究に取り組む道の両方が開かれている医療科学類に魅力を感じ、進学を決めました。医療に興味があれば、進路が明確でなくても学びながら自分の方向性を見つけていける点が、本学類の大きな魅力だと感じています。

実際に学び始めて感じた魅力は、学生同士の距離の近さと学修しやすい点です。医療科学類では1学年が同じクラスのような形で授業を受けるため、高校に近い雰囲気があり、自然と周囲と協力しながら学ぶことができます。試験前には過去問の解説を共有したり、分からないところを教え合ったりと、支え合いながら学びを深めることができています。また、クラス担任の先生に学業や進路について気軽に相談でき、親身に話を聞いていただける点も安心して学べる理由の1つです。

さらに、海外研修などのプログラムも充実しており、私自身も3年次の夏にベトナムで約1か月の短期留学に参加しました。現地の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、薬剤耐性菌の課題について考える中で、細菌が薬剤耐性を獲得するメカニズムなどの基礎研究が国際的な課題の解決に重要であることを実感し、非常に印象に残る経験となりました。

医療科学類は、進路の選択肢が広く、短期留学などに挑戦できる機会もあり、周囲のサポートを受けながら学べる環境が整っています。私自身も入学当初はやりたいことが明確ではありませんでしたが、現在は酵母を用いた老化に関する基礎研究に興味を持ち、卒業研究に取り組んでいます。

将来やりたいことがはっきり決まっていなくても、研究や医療に少しでも興味があれば、ぜひ医療科学類への進学を考えてみてください。



秋山 健太郎さん
2011年度卒業
株式会社LSIメディエンス
アンチドーピング
ラボラトリー

みなさんこんにちは。2011年度に医療科学類を卒業し、その後本学大学院修士・博士課程を修了した秋山と申します。現在は株式会社LSIメディエンスに所属し、各地から届くドーピング検体の分析と新規検査法の研究開発に携わっています。

高校時代の私は「医学研究に関わりたい、でもスポーツとも離れたくない」という思いを抱えていました。医学群と体育学群の双方を擁する筑波大学であれば、両分野に触れながら進路を考えられると考え、進学を決めました。その中で医学を重点的に学ぶことを志向し、医療科学類を選択しました。入学後は分子生物学や病態学といった医学系科目を中心に履修するとともに、講義や研究活動を通して多角的に医療を捉える機会を得ることができ、視野が大きく広がりました。

学生生活の中で特に印象に残っているのは、学類の枠を越えて多角的にアプローチした研究経験です。疾患モデルを用いて発症機序の解明に取り組むとともに、工学分野では造影MRIの検討、体育分野では運動効果の評価を行うなど、1つの現象に対して分野を横断しながら研究を進めました。総合大学ならではの環境で、異なる分野の視点を取り入れて考える経験は、その後の進路を考える上でも大きな財産になりました。

こうした経験は現在の業務にもつながっています。私の担っているドーピング検体の分析はアスリートの人生に関わる重要な検査であり、1つの物質に対して複数の手法から検証を行い、データの信頼性を担保しています。その過程で求められる正確な実験手技やデータ解析、国際的な場での発信に至るまで、学生時代に培った多角的に物事を捉える視点が大きな支えとなっています。その一例として、2021年に開催された東京オリンピックという国際的な大規模プロジェクトにおける分析業務にも携わりました。

これから進路を選ぶみなさんの中には、まだやりたいことが明確でない方もいると思います。しかし筑波大学には、様々な分野に触れながら興味を見つけていける環境があります。日々の学びや出会いの中で、自分なりの進路を形にしてください。皆さんの挑戦を応援しています。



沖田 結花里さん
2007年度卒業
筑波大学医学医療系
助教

高校生の頃、「なぜ人は病気になるのだろうか?」という純粋な疑問の答えを見つけない、「何らかの形で医療に携わる仕事に就きたい」という漠然とした思いで志望校を探していました。新聞記事を読み、より多くの患者さんを救う可能性のある「医学研究」に興味を持ったのもその頃です。医療科学類(当時は看護・医療科学類 医療科学専攻)が、高度なスキルを持つ臨床検査技師と研究者の両方の育成を掲げていることを知り、ここなら自分の可能性を広げられるはずだと受験を決めた日のことを、今でもよく覚えています。

本学類の魅力は、基礎から臨床までを地続きに学べる網羅的なカリキュラムにあります。低学年で生化学、人体構造学、生理機能学、病理組織学といった医学の土台を固め、実習で多様な検査手法を習得し、臨床実習や卒業研究へと進みます。私自身、約1年間にわたる卒業研究で、「世界中でまだ誰も知らないことを、自ら明らかにできる」研究の面白さと奥深さに出会いました。それをきっかけに大学院進学を決め、人生の舵を研究の道へと切ることになりました。当時は、まさか自分が教員として母校の教壇に立つ未来があるとは夢にも思っていませんでしたが、そんな予期せぬ道が開けたことも、本学類で得られる可能性の広さゆえだと思えます。実際に卒業後のキャリアパスは、臨床検査技師、一般企業への就職、大学院進学など、実に様々です。

大学での4年間は、自分の将来をじっくりと見定め、未来を切り拓くための準備期間でもあります。またこの広大なキャンパスで出会う恩師や仲間との絆は、一生の財産になることでしょう。かつての級友や今の教え子たちを見ていても、4年間の学びや出会いを糧に、それぞれが自分らしい専門性を社会の中で見出しています。自らの未来へ一歩踏み出すための力と自信」を、私たちと一緒にこの医療科学類で育んでいきましょう。